

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 文学部・3年

参加プログラム: Summer School in the social sciences and French language (French language track) June Session

派遣先大学: Sciences Po

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:外資メーカー) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

Sciences Po(パリ政治学院)は社会科学系のグランゼコールで、オランド大統領やサルコジ元大統領、シラク元大統領など政界・財界の著名人を数多く輩出している。キャンパスは、パリをはじめフランス全土にキャンパスを有する。

参加した動機

私は文学部でフランス文学を専攻していますが、第二外国語は中国語で、学部進級時フランス語は初級だったため、読むだけでなく話せるようになりたいと思っていた矢先、あのパリ政治学院で、しかも今年から6月の、まさにフランス語学習コースがあると知り、これほどの絶好の機会はないと思い応募致しました。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

本部国際交流課や、文学部に提出する書類に、教授の印が必要な個所が何か所かあるのですが、教授がたはお忙しくなかなかお会いできないので、研究室に直接行って先生方の出勤日を教えて頂くと思いいます。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

1か月の滞在なのでビザは必要ありませんでした。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

事前にかかりつけの病院で、風邪を引いた時のための薬を頂いてから行きました。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

本部国際交流課に紹介いただいた学研災付帯海外留学保険に加入しました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

文学部に書類を提出したほか、各教授がたに欠席の間の授業の相談をしました。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語レベルは IELTS 6.5で、特に追加の対策はしませんでした。フランス語は文法書を一冊仕上げました。

⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本食や、意外にサララップや水筒など節約生活にとても有用でした。また、フランスでは想像以上にフランス語しか話されないで、事前にリスニングの特訓もしておくべきでした。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

French track は、フランス語の授業、英語によるフランス政治や文化の授業、外でフィールドワークする授業の3スタイルでした。レベル別にクラスが分かれていますのですが、私のクラスは6人という小規模で、授業中とにかく発言していくアットホームなスタイルが、スピーキングスキル向上にとても有益でした。宿題はありましたが、それほど負担ではありませんでした。フィールドワークでは、街角のフランス人にインタビューやモニュメントの探索など、勉強と同時にとても楽しめる授業でした。

② 学習・研究面でのアドバイス

学校での学習だけでなく、普段の生活で、フランス語だけで買い物や観光をし、家ではフランス語の音楽を聴くなどフランス語に浸りきって生活してみると、自信もつのでおすすめです。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

フランス語学習は問題なかったのですが、サマースクールの生徒はアメリカ在住など英語で生活している人がほとんどで、特にネイティブ英語に当初大変苦勞しました。

生活について

- ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
CROUS という大学の紹介した寮のシングルにいました。私とその部屋の最初の入居者で大変綺麗だったので、wi-fi が1週間繋がらなかったりシャワーの出が大変悪かったり事務の方はフランス語しか通じなかったりと、苦労の連続でした。
- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
パリはメトロが大変発達していて、1か月乗り放題の定期を買ったので、交通は大変便利でした。気候は、6月の終わりから大変暑く、40℃近くになるときもあり、猛暑でした。お金は、ほぼどこでもクレジットカードが使えました。
- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
パリはテロの懸念がありましたが、特に変わったことはなく、市内で軍人をよく見かけました。リヨン近郊で事件があったときは動揺しましたが、おおごとに発展せず安心しました。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費:約10万円 授業料、教科書代:約30万円 家賃:約10万円 食費、交通費、娯楽費:約6万円
- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
卒業生有志の奨学金を20万円支給して頂く予定です。
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
授業担当の先生が、パリで日本語を勉強しているフランス人学生や先生を紹介してくださり、言語交流をしていました。またサマースクールにはさまざまな国籍の生徒がおり、各国の話を聞いたり料理を作ってもらったりと文化交流もできました。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
サマースクールスタッフが何人かいらっしゃり、日中はオフィスに常駐してサポートしてくださいました。
- ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
大学全体の雰囲気がとても良く、中庭も快適で、教室も大変綺麗でした。図書館はとても広く PC も多く、自習環境も良かったです。

プログラムを振り返って

- ① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラムを通して、予想以上にフランス語が上達したと同時に、生徒同士の交流ではからずとも英語力も伸び、また機会に恵まれ現地のフランス人のかたがたとも交流でき、毎日が新しい発見に満ちていて、飛ぶように時間が過ぎてしまいました。フランス語力向上だけでなくフランスという国を理解するためにも、間違いなく行って良かったですし、ほかの海外の生徒たちの価値観と交流できたことは、間違いなく私の将来設計をも変えてくれる1か月間でもありました。相談に乗り、留学を後押ししてくださった仏文科の教授がたに、大変感謝しています。
- ② 参加後の予定
フランス語検定を取るべく勉強を続けると同時に、現地で知り合ったフランス人の友達と連絡を取り合い、また日本でも留学生などと交流してフランス語力をさらに向上させていきたいと考えています。
- ③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
1か月間授業を休むという大きな犠牲はあったものの、その分得られたものも大変大きかったです。フランス語だけでなくフランスの政治や国の特徴も学ぶことができ、キャンパスの立地やイベント、ハイレベルな生徒たちを含め、語学学校に通うより断然パリ政治学院のサマースクールをおすすめしたいです。

その他

- ① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
フランス留学中の日本人学生のブログを読んだり、留学中の知り合いに相談したり、昨年参加した知人に相談したりしました。
- ② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



